

高等部の実践

目 次

実践例	1 「手話等のサインと音声を合わせた意思表示の指導について」	1
〃	2 「相手に伝わるような速さで発音する指導について」	3
〃	3 「役割の理解と、自主的な活動の指導について」	5
〃	4 「自分の考えや気持ちを伝えるコミュニケーション手段について」	7
〃	5 「自己有能感を高めるために ～タブレット端末と IC レコーダーの活用を通して～」	9
〃	6 「情緒の安定に向けた取組について」	11
〃	7 「修学旅行における航空機座席と借用車椅子での座位保持の仕方について」	13
〃	8 「話すことや考えをまとめる力を促す国語の時間の取組について」	15
〃	9 「継続してトレーニングに取り組むことを目指して」	17

実践例 1 「手話等のサインと音声を合わせた意思表示の指導について」

1 実態把握

- ・自閉性障害を有する。
- ・身体部位の指差しに合わせて発声をするなどして、自ら自分の意思を教師に伝えようとするが、友達と関わることは少ない。
- ・伝えようとする内容は、「トイレに行っていていいですか?」「着替えに行ってもいいですか?」などであり、教師への確認のために行っていることが多い。表出言語はないが、「あ」「い」「う」「え」「お」や「ば」「び」「ぶ」「べ」「ぼ」などの発声ができる。
- ・内言語が多く、教師からの簡単な指示を聞いて行動したり、教師の表情や身振りで、称賛や注意を受けていることを理解したりしている。また、教師に意思が伝わらないと、不安な表情をする場面がある。

2 自立活動の目標と指導内容・指導場面・指導方法

指導目標 自分の要求や許可を求めることなどについてジェスチャーや単語の一部を発音して伝える。		
指導内容	指導場面	指導方法
日常生活で使用する名称の手話や発音、口形の獲得	自立活動	・手話等のサインと音声や口形の指導
意思表示の手段の獲得	日常生活の指導	・手話等のサインと音声をを用いた、着替えの確認を教師に伝える指導

3 具体的な指導実践

(1) 指導実践

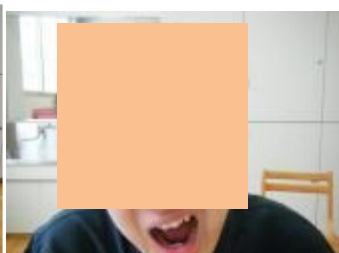
学校生活で使用する名称の手話を使って表せるように、手本を示しながら指導していった。「服」「勉強」については教師を見ながら手話で表すことができたが、「お昼」「食べる」「作業」などの手話については指を正確に形成することが難しかった。また、発音や口形の指導では、対象生徒が必要と感じている「きがえ」「トイレ」「わかば(放課後支援)」といった名称については意欲的に真似することができたが、「きがえ」が「きあえ」、「トイレ」が「おいえ」と母音での発音になる部分があった。



昼を表している様子



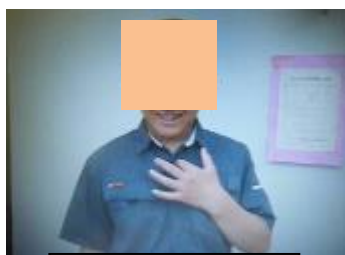
勉強を表している様子



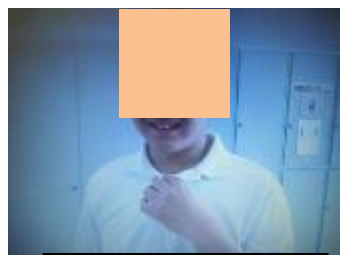
「ば」と発声している様子

(2) 指導実践

教師に確認することが多かった、着替えの確認を「服」を表す手話と「きがえ」と発音し、教師に意思表示できるように、場面設定した。自分の胸を指差ししている場面が多かったが、9月頃からは服を意味する手話を使いながら、着替えの頭文字である「き」と発声し、「着替えをしてもいいですか」と特定の教師に伝えることができる場面が表れるようになった。しかし、教師の手本を見てから、手話や発音を真似することが多く、自ら手話と音声を使って伝えようとする回数は全体の割合と比べてまだ少ないことから、これからも生活の流れの中で指導しながら定着を図っていくことが必要だと思われた。

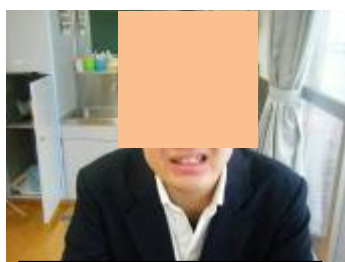


指差ししている様子



「服」を表している様子①

引き続き指導を繰り返したことで、10月上旬頃からは学級担任全ての先生に、服を意味する手話を使いながら、着替えの頭文字である「き」と発声し、「着替えをしてもいいですか」と伝えることができるようになってきた。10月中旬頃からは、作業や美術担当といった担任以外の教師にも、同様な手段で確認を求める場面が見られるようになった。



「き」と発声している様子



「服」を表している様子②

4 成果と課題

○成果

- ・自ら服を意味する手話を使いながら、着替えの頭文字である「き」と発声し、着替えの確認を担当に行えた場面が実践②の時よりも増加した。また、学級の他の担任や作業や美術の担当にも同様に伝える場面が見られるようになった。「伝わる」という経験が増えたことで、特定の教師だけでなく、他の教師にも伝えようとする意識が芽生えたと考えられた。

○課題

- ・着替えの確認を求める際に、「着替えをしてもいいですか」という言葉で伝えなくてはならないのだが「き」のみの発声になっている。また、手話での表現も「服」のみにになっているため、確認を求める文章が成り立っていないことから、今後は、会話補助装置なども試しつつ、今までの指導と組み合わせながら、より相手に伝わりやすい意思表示ができるように指導していくことが必要だと考える。

実践例2 「相手に伝わるような速さで発音する指導について」

1 実態把握

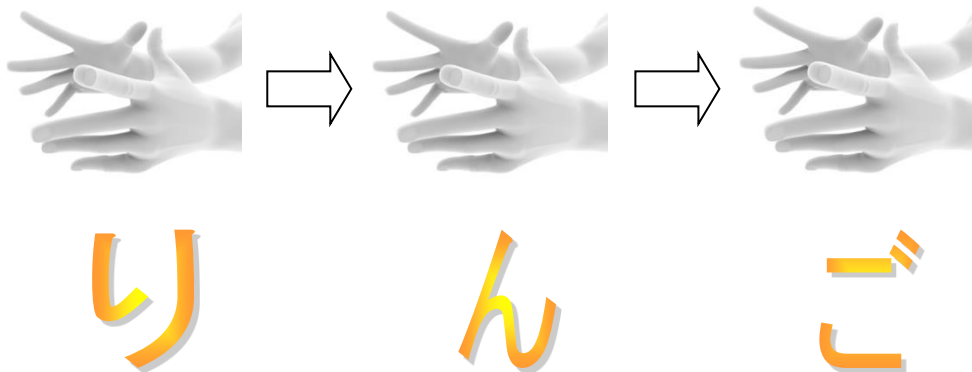
- ・友達や教師と、簡単な言葉でのコミュニケーションでやりとりすることができる。
- ・朝の会では、給食のメニュー紹介の係を高等部から担当している。友達から、「早口なので何を言っているか分からない」と言われることが多かった。
- ・発表するときは、原稿があっても、呼吸を入れずに一続きにして読むことが多く、テンポがどんどん速くなってしまい聞き取りにくくなってしまう。
- ・意味の分かるルールやきまりを守って活動することができる。教師や友達から指摘されたことについては、やり直すことができる。
- ・納得できなかつたり、気になることがあつたりすると、近くにいる教師や友達に何度も聞いて確認することがある。
- ・側わんの手術を行い、退院、自宅療養で1か月ほど学校を休んだ。

2 自立活動の目標と指導内容・指導場面・指導方法

指導目標 集団活動の中で話をよく聞き、話の内容を理解する。		
指導内容	指導場面	指導方法
リズムに合わせた発音	朝の会・自立活動	○教師と一緒に手拍子のリズムに一音乗せて発音をする。(しりとり、文章の音読、単語を読む)
呼吸を入れた読み方	朝の会・自立活動	○休む印を見ながら呼吸を入れて読む。

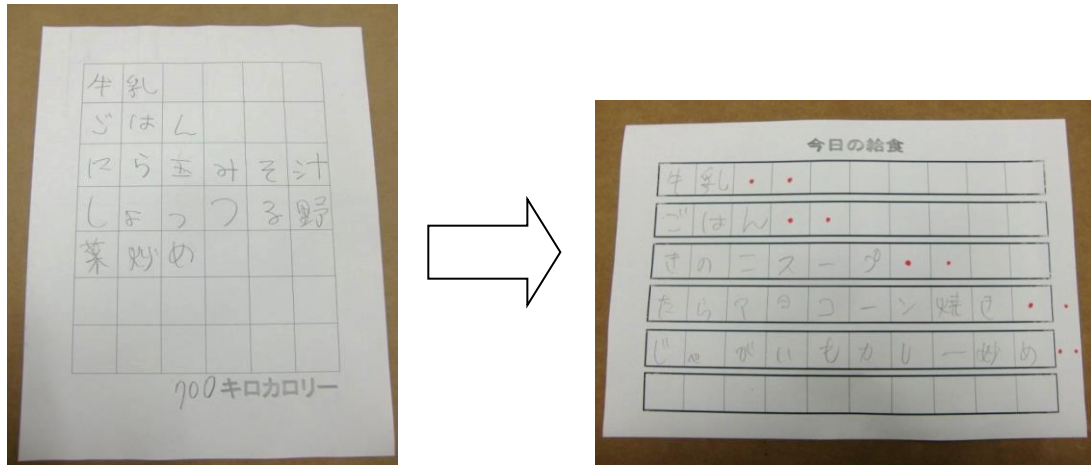
3 具体的な指導実践

(1) 指導実践 ～リズムに合わせた発音～



上図のように手拍子一回につき一音発音して、しりとりをしたり、単語や文章を読んだりする練習をした。初めは、教師の手拍子を聞いても、発音を合わせられなかったり、本生徒が手拍子を打つとどんどん速まったりした。しりとりを繰り返すことで、教師の発音の仕方を真似して手拍子一回につき一音発音することが定着し、しりとりだけではなく、単語を発音するときや、文章を読むときにも、手拍子のリズムで発音することができるようになった。また、手拍子がなくても、一音ずつはっきりと発音することができるようになった。

(2) 指導実践 ～呼吸を入れた読み方～



原稿を読むときに、一続きに読んでしまうため、呼吸も入れずに読み切ろうとすることが多かった。そのため、上の右写真のように、呼吸を入れるところに赤い点を二つ打ち、休むところがあるようにした。メニュー表に点を打つだけでは、定着しづらいこともあったが、実践①のように手拍子のリズムの中に二つ休むことも取り入れて、読む練習をしたことで、赤い点は二つ休むという意味も分かり、メニューとメニューの間を区切って読むことができるようになった。

4 成果と課題

○成果

- ・一文字ずつははっきりと発音することができるようになり、相手に伝わるようにメニューを読めるようになってきた。朝の会の給食メニュー発表では、友達に「今日のメニューは○○なんだ」と言われ、話すメニューの内容が伝わった。
- ・初めは、教師が「速さは？」と言ったり、手拍子をして「この読み方だよ」と確認したりしていたが、発表するときの読み方として、発音するテンポや呼吸の入れ方が定着した。

○課題

- ・メニュー部分を読むときは、リズムを意識して発音できるが、「今日の給食は」の部分などのメニュー表に記入されていないセリフについては、以前と同じように早口になることが多い。原稿があるものは、リズムを意識して発音することが定着してきたので、給食のメニュー発表だけではなく、発表場面の幅を広げて、現場実習の時の発表・報告などでも、「みんなに伝える」読み方、話し方が定着するようにしていきたい。

実践例3 「役割の理解と、自主的な活動の指導について」

1 実態把握

- ・集団で活動しているときは、話し手を意識することが難しく、別のことを考えて周りを見ていることが多い。
- ・質問に対してはオウム返しで答えることが多い。
- ・答え方を提示することで選択したり返答したりすることができる。
- ・普段の話し声は非常に小さく聞き取りにくいですが、促されると大きな声を意識して話すことができるようになってきた。
- ・難しいと思われることを要求したり、注意したりすると「しかめっ面」「涙を流している」などと言い、ごまかしたり物に当たったりしてアピールすることがある。
- ・大きな声での発声を何度も求められると、泣いたり、物を壊したりする。
- ・活動内容が自分なりのやり方になったり、活動とは関係ないことをやったりする。
- ・細かい作業や絵を描くことを好む。
- ・好きなことや簡単なことには興味を示し、自分から活動に取り組む。

2 自立活動の目標と指導内容・指導場面・指導方法

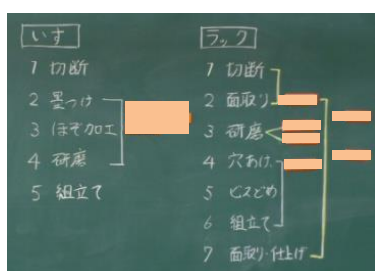
指導目標 集団活動の中で話をよく聞き、話の内容を理解する。		
指導内容	指導場面	指導方法
状況（活動）の理解 自主的な活動	作業学習	○黒板の板書を確認して、目標をたてる状況を設定。 ○作業内容カードを提示する。 ○流れが定着するように教室環境を整える。

3 具体的な指導実践

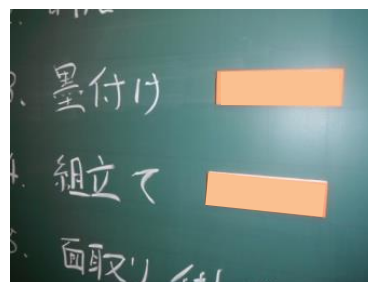
(1) 指導実践

本時の活動内容を個別に指示や伝達はせず、黒板に全体の活動を板書して、自分が何の役割になるのかを確認して、本時の自分の目標をたてるように設定した。

初めは確認することなく、前回の活動を引き続きやろうとしていたが、周りの友達と活動が合わなくなったり、何をやればいいのか分らず動けなかったりしていた。その間教師からの指示を控え、自分で確認できるようにした。周囲が黒板の板書を見て確認していることを知ると、黒板の近くに行って作業内容を確認して目標を立てられるようになった。作業内容を確認できてからは、内容にあった目標を立てて、自分で作業に必要な用具を準備して取り組むようになった。



【全体の板書】



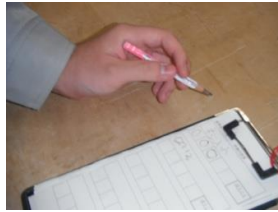
【個人の板書】

(2) 指導実践

活動に見通しがもてるように、作業内容、個数、報告確認を記載する作業内容カードを提示した。「何を?」「何個?」「出来具合は?」を、なかなか自ら考えて取り組むことが難しく、その都度教師からの言葉掛けを受ける状態が続いた。カードを持参しない時はそのまま戻し、確認してもらえないことを気付けるようにした。2学期になってからは、自分で必要な部材を選び、決められた個数で報告し、教師から悪いところの指摘を受け、次回には修正しながら、教師がそばで見届けなくても活動できるようになってきた。



【作業内容カード】



【書込の様子】



【作業の様子】

その他 (環境整理)

自分で作業の流れに沿って活動できるように、教室の配置を大きく変えた。これまでは書き物をするための場所と、作業をする場所が棚で仕切られていたため、棚の場所を壁側にしたり、使用頻度が少ない棚を準備室に移動したりした。環境を整理することで、教師が場所を教えなくても、必要な道具や部材を自分で準備したり片付けをしたりして、作業がスムーズに行われるようになった。



【移動前】



【移動作業】



【移動完了】

4 成果と課題

○成果

- ・作業能力が高い生徒だが、活動に見通しがもてなければその能力を生かすことができないため、分かりやすいヒントやきっかけとなる教材を提示することで、活動に見通しをもって活動することができた。

○課題

- ・もともと想像力や発想力が豊かではあるが、指示を待って行動することが多いため、今回のように教材や環境を整え、それをきっかけとして作業学習以外の生活場面でも、自主的に活動ができるようにしたい。また、人との関わりが少なく会話も少ないため、質問や話の内容を聞き取る習慣がない。できる限り多くの人と関わりをもち、自分の気持ちや思いを込めた会話をする場を設定していきたい。

実践例4 「自分の考えや気持ちを伝えるコミュニケーション手段について」

1 実態把握

- ・場面緘黙がある。家庭・養育環境、小学校での生活、友達関係、本人の性格等の要因が絡み合って、何かをきっかけに、現在の症状に陥ったと思われる。「不安や緊張のために話せない」のであって、「話さない」のではない。緘黙という症状によって、「不安」から自分を守っている。
- ・質問や自分の意思など伝えたいことがある場合は、メモ帳や黒板に記入している。
- ・読書や絵画、アニメ、縫製などが好きである。

2 自立活動の目標と指導内容・指導場面・指導方法

指導目標		
・相手からの質問に対する答えや自分の気持ちを伝える方法を工夫する。 【2心理的な安定(1)】【3人間関係の形成(1)】【6コミュニケーション(1)(4)】		
指導内容	指導場面	指導方法
・メモの活用 ・うなずきなどの大きな身振り ・意思の伝え方	学校生活全般	・相手からの質問に対する答えや自分の気持ちを伝える方法を工夫する。 ・伝わるサインを共通のものにする。

3 具体的な指導実践

(1) 学校生活で共通理解した対応

- ・可能な限り不安を減らす。
- ・話さないことを責めず、気にせず接する。
- ・非言語的コミュニケーションの活用(身振り、指さし、筆談等)。
- ・具体的な選択肢や視覚的な手がかりの活用。
- ・友達との関わりをさりげなく設定。
- ・リラックスできる環境作り。

(2) 教育専門監から受けた指導助言

大事なことは今できることを認め、得意なことをのばし、スモールステップできることを増やす。そのことで本人が自己評価を高めて、「自分にはできる、だからもっと頑張りたい」と思えるようにする。今後も医療との連携を密にしてほしい。

理解→情緒の安定(不安の軽減)→集団行動→非言語サイン→発語

(3) 指導場面

① 朝・帰りの会

日替わりの日直で、自分の順番が来た際、初めは進め方をどうするか、迷うことが多かった。教師が代弁して進めたり、係の友達へ写真カードを持っていくように進められ、お願いしたりするなど消極的な参加が多かった。本人も自信がないため、不安な表情を見せることが多かった。また、感想を述べる場面では、黒板への記入を進められてから記入することが多かった。

そこで、メモ帳を活用することにした。文章をまとめて記入し、依頼する場面を活用し、やりとりがスムーズにできる体験を多く設定した。自分で気が付いて取り組めるようにするために、どうすればよいか、本人に考えさせるようにしたところ、事前に準備し、用件を伝えるようになった。

② 進路学習（総合的な学習の時間）

余暇活動の充実を図ることを目的に、学年全体や小集団での話し合い活動を設けた。全員が楽しむために、活動内容や係分担を話し合っ決めて決めるようにした。集団が大きい場面では意見を問われるのを待ち、消極的な姿勢が見られたが、4～5人集団では必ず発言を求められ、役割を任せられることがあったため、注目を集める場面が多くあった。学習が進むにつれ、集団内での意見やアイデアが採用されるなどスムーズなコミュニケーションが行われるようになり、活動内容をより楽しめるようになった。

③ 全校・学部行事

全校集会で、「夏休みの思い出」を代表で発表する機会を設定した。タブレット端末を使って、自分の思い出を発表した。文章を構成する力があるため、幾つかの思い出の中から選んでまとめて入力し、友達に読み上げてもらう形で発表することができた。

10周年記念式典のアトラクションでの箏演奏、学園祭でのアイドル役と、これまで経験のない学習内容に取り組んだ。友達が放課後、箏の練習を行っている様子に刺激を受け、家庭での模擬練習に取り組むなど真剣に取り組む姿勢が見られた。また、アイドルの気分になったり本番で化粧をしたりと初めての体験に挑戦したことから、「人前での発表は緊張するけれど楽しいと思えた」ことが感想から伺えた。

4 成果と課題

○成果

- ・メモ帳や連絡ノートで確認、サインの検討が挙げられる。多くは対教師だが、発表場面やワークシートを使った意見交換の学習場面では考えや気持ちなどを共有することができたため、今後も継続していきたい。また、スマートフォンを携帯しており、現場実習での安着電話を電子メールでやりとりできた。教師に対する安心感につながり、さらにその後音声での会話ができたことがあった。双方向から始まるやりとりをより深めていきたいと考えている。本人の周りに人が集まることを多く増やし、発信できることを期待したい。

○課題

- ・話すことに代わる成績評価や参加方法（台詞の録音など）については、本人と相談しながら進めていきたい。特別扱いはせず、どのような参加の仕方があるか、本人が決める場面を設定し、全員が納得し、共有できるようにしていきたい。また、体験活動を通し、社会場面での自信を付けられるように、活動を紹介したり、伝えたりすることも必要であると考えている。

実践例5 「自己有能感を高めるために ～タブレット端末とICレコーダーの活用を通して～」

1 実態把握

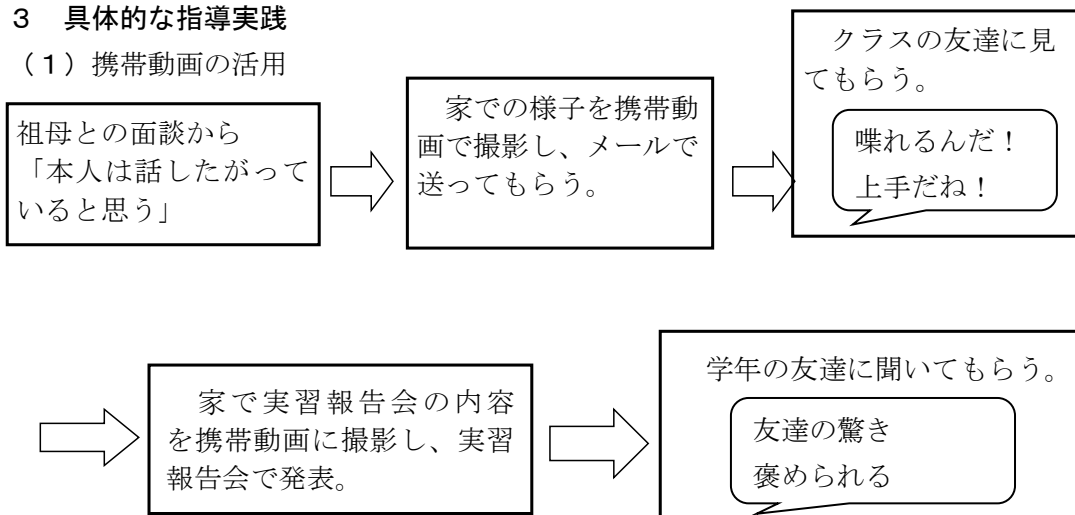
- ・場面緘黙。
- ・中学部に入学した頃から学校で言葉を発することが少なくなった。他校から来た生徒が大多数をしめ、活躍の場面も減り、元々言葉も不明瞭だったこともあり、次第に言葉数が減っていったと考えられる。
- ・現在学校では表情やジェスチャー、筆記等で自分の伝えたいことを伝えている。
- ・伝えきれないもどかしさ、自信のなさ、面倒なことに対して分からない素振りで誤魔化したり質問できずに勝手なやり方をしたり等の様子も見られる。
- ・機器を操作するのが好き。
- ・好きなこと（作業など）には根気強く取り組む。

2 自立活動の目標と指導内容・指導方法

指導目標 ・自分なりの方法で表現しながら安定した気持ちで学習活動に取り組む。 【2心理的安定（1）、コミュニケーション（2）】
指導内容 ・様々な方法でのやり取り機会の保障。 ・成功経験、自己肯定感の積み重ね。
指導方法〈日常生活の指導〉 ・代替手段の活用。 ・表現する場面の確保。

3 具体的な指導実践

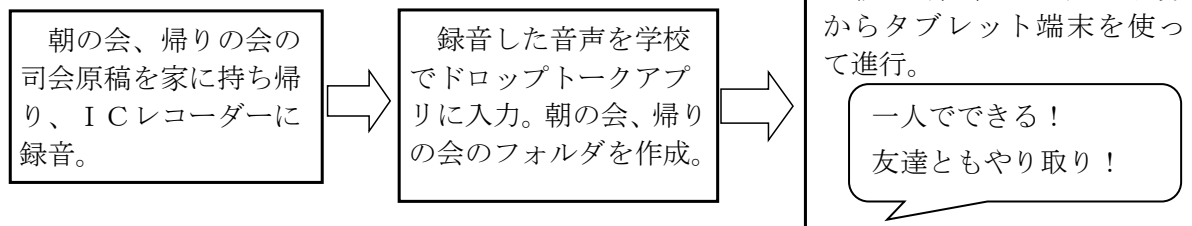
（1）携帯動画の活用



【評価】

- ・本生徒の話し声を聞いた友達の変化
 ～これまでは、本生徒の意見を聞く必要がないと考えていた友達が、本生徒に質問するなど本生徒を認め、関わり方に変化が見られた。
- ・自分の声を友達に聞かせたいという気持ちが芽生えてきた。

(2) タブレット端末ドロップトークアプリを活用

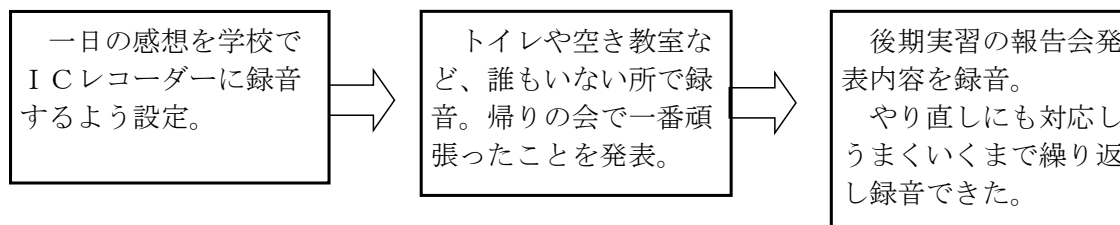


【評価】

- ・教師の支援がなくても一人で進行することができるようになった。
- ・友達の注目が高まり、双方向のやり取りが増えた。



(3) 学校でICレコーダーを活用



【評価】

- ・3年間声を出すことのなかった学校で声を出した。
- ・学校での録音はどうしても声が小さくなり、聞き取りにくいいため、ホワイトボードを併用することもあった。

4 成果と課題

○成果

- ・本生徒の気持ちを確認し、成功を実感して自信をもってから次のステップに踏んだことで、ICレコーダーへの録音という形ではあるが、3年間声を出すことが無かった学校で声を出すことへ結びついた。
- ・友達や教師との双方向のやり取り場面が増えた。
- ・一人で朝の会や帰りの会の司会進行ができ、友達の注目が高まった。
- ・家で録音した自分の歌声を他学年の教師や友達に聞かせるなど、自分の声を聞かせることへの抵抗感が減り、関わりの広がりも見られるようになってきた。

○課題

- ・あらかじめ録音した内容のことであれば対応できるが、応用場面での活用は難しかった。
- ・一日の感想発表では、録音しても聞き取りにくいことが多かった。ただ、録音した声をみんなで聞き、「～のこと？」「～って言った？」等のやり取りがクラス全体で増えた。
- ・本人が納得する形での継続・拡大方法を探る。

実践例6 「情緒の安定に向けた取組について」

1 実態把握

- ・高等部から本校に入学する。
- ・幼少期から否定的な発言が多く、気に入らないことがあると暴力を振るうこともある。
- ・気持ちが安定しているときには少しの嫌なことはやりすぎし、友達への態度も優しくなる。
- ・医療療育センターが18歳までの受診となるため、別の医療機関にするか、服薬を中止するかを選択を迫られている。(服薬を中止する方向で試行したが、状態が悪くなり、現段階では別の医療機関にする方向が残った。)

2 自立活動の目標と指導内容・指導場面・指導方法

指導目標	<ul style="list-style-type: none"> ・適切な人との関わりを身に付け、落ち着いた学校生活を送る。 <p>【2心理的な安定(3)】【3人間関係の形成(2),(3)】【6コミュニケーション(5)】</p>
指導内容	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションスキルを高める指導。 ・自己肯定感を高める指導。
指導方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャルスキルトレーニングなどを取り入れる。 ・得意な制作活動を取り入れ、集団での役割や責任感をもたせる。

3 具体的な指導実践

	教師からの働き掛け	生徒の変容
本生徒との関係づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・本児の好きな仮面ライダーや恐竜の話に根気強く付き合い、自分の知識を交えてコメントを返すようにした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝や休み時間に自作の小説ノートを手に話しかけてくるようになった。朝に話し掛けてこない日や朝の会の様子から気持ちの不安定さの程度が分かるようになり、次の活動へ向かう際に支援の必要な日とそうでない日を区別できた。支援が必要と思われる日は、次の活動場所まで送り、担当の教師に状態を伝えた。作業など新しい活動ではなく、経験のある活動を担当することで最後まで参加できる日が増えた。
言葉掛け 自尊心をくすぐる	<ul style="list-style-type: none"> ・「語彙の豊富な○なら別の表現もできるんじゃないかな？」 ・「先輩としてアドバイスできない？」 	<ul style="list-style-type: none"> ・同級生を「人間のクズ」とプリントに表記→「空気読めない人」と書き直した。 ・友達の発表に反応し、声を上げる生徒に対して「うるせーよ！」→「ちゃんと聞けよ」と声を掛けるようになった。 ・朝の会で次第を間違えた生徒に対して「ちがうだろ、バカ」→「順番が逆ですよ～」と声を掛けた。
職業の授業	<ul style="list-style-type: none"> ・「人との関わり」の題材で自分がされて嫌だったこと、うれしかったことを紹介し合う活動を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・乱暴な言葉で傷付いた友達のエピソードを聞いて、「(言う前に)考えてやってみようと思う(無理かも)」という感想を書いた。同じ授業の中で乱暴な言葉を言うとき、相手に聞こえないように言うことが多くなった。

S S T	<ul style="list-style-type: none"> ・「無人島 SOS」話し合いの中で自分が納得できる理由があれば相手に意見を譲る練習 (助かるためのルールとして提示) 	<ul style="list-style-type: none"> ・本児が得意としている朗読の役割を与え、問題をみんなの前で読んでもらい、話し合いに入った。友達 (後輩も含む) の話もしっかりと耳を傾け聞いていた。自分の意見も押しつけるのではなく、納得させようと言葉を選びながら話していた。4人グループの司会を務めながらみんなの意見をまとめた。
保 護 者、 医 療 機 関 と の や り と り	<ul style="list-style-type: none"> ・本児の受診前に Dr にメールし、本児の様子を伝えた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・Drに本児の学校での様子を伝え服薬の必要性を確認した。保護者とは連絡帳や面談を通して本児の様子を伝え合い、今後の服薬、新しい医療機関の選択について話し合った。新しい病院を受診する初回は同行することを伝えた。 ・これまで自分の特性についての説明を「聞きたくない」と拒否していたが、1月の受診で「聞くことを覚悟してきた」と話した。Drからの説明を受けた後、自分の特性を前向きに捉えている。3月にもう一度、説明してから病院を移ることを確認している。

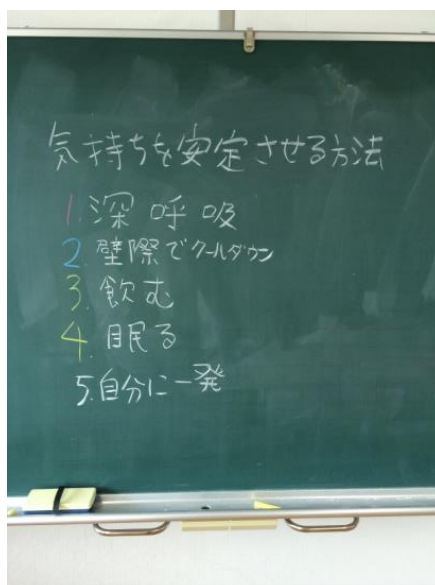
4 成果と課題

○成果

- ・友達への態度、集団活動への参加など、この9か月間で改善が見られた。暴力的な行為の事後指導の中で本人が自分の行為を振り返りながらどうすればよかったか、今後同じ状況でどうすれば良いかを考え、落ち着くための方法を自分で五つ挙げた。

○課題

- ・残る課題として、突発的な出来事や感情の高ぶりに対し、自分で考えたこの方法を思い出し、実行し、落ち着くためにはどのような指導が効果的か、これまでの事案を振り返り、対応を教師間で共通理解したい。



実践例 7 「修学旅行における航空機座席と借用車椅子での 座位保持の仕方について」

1 実態把握

- ・首は座っていないが、左右に顔を動かしたり、頭部を上げたりすることができる。
- ・背後から支えて座位の姿勢をとると、姿勢が安定し、頭部を上げようとする。
- ・股関節が脱臼しやすいために、車椅子の乗り降りの際は、注意が必要である。
- ・車椅子の移動中に両手を外側に広げる動きをすることがあるため、狭い場所やエレベーターでの移動の際は、注意が必要である。
- ・音楽を聴くことが大好きで、好きな曲がかかると声を出して笑う。緊張が強い際に、曲を流すと力を抜き、リラックスしてストレッチ等に取り組む。

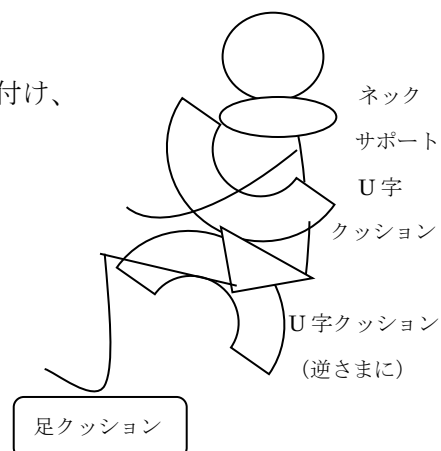
2 自立活動の目標と指導内容・指導場面・指導方法

<p>指導目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正しい座位で、普通の車椅子や機内で姿勢を保持する。 <p>【4環境の把握（1）】【5身体の動き（1）（2）】</p>
<p>指導内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自立活動の学習の中で姿勢保持の学習を設定する。 ・座位保持の時間設定。 ・正しい姿勢で、10分程度座位保持をする。
<p>指導方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・繰り返しの活動（毎日10分程度） ・姿勢が崩れないように、頭や肩を支えながら行う。

3 具体的な指導実践

○機内姿勢

音楽をかけてリラックス。首にはネックサポートを付け、U字クッションをお尻の下に使用。姿勢が安定するように上半身を支える。



○普通の車椅子に乗る場合

U字クッション（逆さまに）と足下にクッションを使用。

車椅子を押す際は、首が安定するように、頭を押す人の胸をつける。

羽田空港～借用車椅子での移動の様子



4 成果と課題

○成果

- ・機内では、音楽をかけることでリラックスして、座っている様子が見られた。上半身が不安定なため、上体や頭を支えながら座位保持する必要がある。
- ・クッションをお尻の下に置くことで、長時間座位保持することができた。

○課題

- ・正しい姿勢を保持できるように、普段からストレッチを十分に行ったり、座位保持の練習を取り入れたりしながら、体幹の指示性を促していく。

実践例8 「話すことや考えをまとめる力を促す国語の時間の取組について」

1 実態

○特徴的な行動の様子

- ・好きな活動には積極的に取り組み、自分から意見を出すことができる。
- ・男女問わず話し、好きな友達と関わりたい気持ちが大きく、自分から話の輪に入っていく。
- ・目上の人との会話を敬語で話すことを心掛けているが、意識しないと常体で話してしまう。
- ・学校では自分のことは自分で行っているが、周囲が気になり遅れをとることが多い。家庭では、身支度等ほぼ母親に手伝ってもらっている。
- ・やりたいことが我慢できず、急ぐ必要があるときでも水筒の水を飲んだり、主役をやりたい等繰り返し懇願したりすることがある。
- ・急に話し掛けられたり、質問されたりすると相手をじっと見つめ答えることができないことがある。

H29年度1月ST支援日 支援課題

以前より大きな声で話すようになったが、話すときの発音が聞き取りにくいときがある。また、話そうとする内容をうまく伝えることができないため、聞き手が推測して聞き返すこともある。考えをまとめるための練習などについて。

<1月26日 ST支援日>

○語の流暢性

- ・「あ」の付く言葉（1語／1分） → 1分間で1語「アイス」
- ・「動物」（3語／1分） → 「ゾウ」「キリン」「サル」3語一気に答えるが、時間オーバー。
時間外に「フクロウ」「クジャク」「ツル」を鳥つながりで連想し答える。

◎佐藤STから

- ・発声は、声が大きくなり口の動きや顔の向きもよくなり、明瞭度が伸びている。
- ・会話場面では、質問に対しての答えを思い起こすことに時間が掛かる。
- ・意味ネットワークのつながりが弱い。
- ・質問に対する答えを1から思い出さないと答えられないことが多い。



- ・意味ネットワークの強化～ことば遊び、連想ゲーム、マジカルバナナ等

2 国語の取組

< 7月5日(水) ① 国語：授業冒頭に実施(Aグループ5名) >

○古今東西ゲーム・・・お題「あ」の付く言葉

- ・やったことのあるゲームだとすぐ理解し、手拍子に合わせて答える。「アイス」「アリ」
- ・複数の生徒で行うことで、「楽しい」「面白い」という雰囲気生まれた。
- ・他の生徒への発語トレーニングにもなっている。
- ・ST支援日ほどの沈黙はなかった。

○マジカルバナナゲーム

- ・始めは5人全員で行った。
- ・言葉巧みな生徒1名とペアを組んで行うことで、言葉を早く話すトレーニングとなった。

1月の支援日との変化

- ・知っている。やったことがある。などの経験が生きている。
- ・改まった場面では、思考回路が低下していたが、周りの雰囲気を感じて自分の考えに結び付けることができたのではないかと。

< 7月6日(木) ② 国語 >

○古今東西ゲーム・・・お題「食べ物」

- ・答えられる幅を広くした → さくらんぼ→「メロン」→メロンパン→ぶどう→りんご→「たまご」



- ・始めは前の友達が答えた、果物つながりから連想し答えたが、手拍子に合わせて他の言葉へ変換することができた。

3 今後の取り組みに向けて

- ・楽しんで取り組める課題を設定し、自発的な言葉の想起につなげる。
- ・改まった場面などで、スムーズな受け答えができるように、集団の力を借りてトレーニングを継続する。

実践例9 「継続してトレーニングに取り組むことを目指して」

1 実態

- ・脱力していることが多いが、運動するときには全身に力が入り、動きが大きい。
- ・歩くときにパタパタ音がする。(母より)
- ・自分で継続して取り組むのが難しい。(忘れてしまう、やりたくない等)

2 外部専門家から観察された事項や評価 ～8月27日(木)PT支援日

- ・肩、ひじ、手の関節の支持性が低い。
- ・意欲的に毎日トレーニングに取り組む習慣を身に付ける。

3 課題

(1) ねらい

- ・体幹トレーニングをととし、肩、ひじ、手の関節の支持性を高める。【5 身体の動き(1)】

(2) 指導内容

- ・給食前の空き時間を利用し、体幹トレーニングに取り組む。

(3) 指導方法

- ・専用のカレンダーを準備する。
- ・トレーニングの内容が分かりやすいように、トレーニングをイラストで表したものを掲示する。
- ・毎日トレーニングをする意欲付けを図るために、終わったらカレンダーにシールを貼る。

- ① 指の運動(洗濯ばさみ)
- ② 姿勢のキープ 30秒
- ③ 腕立て伏せ 20回
- ④ おしりを上げる 20回
- ⑤ うさぎ 10回

※かかとを床につけて歩く



4 指導の経過

- ・体幹トレーニングを継続して行うことができた。給食前の時間に行うことが習慣化し、準備や片付けも自分から進んで行っている。
- ・歩行の際のパタパタ音が鳴ることは少なくなった。パタパタするときは「かかとをつけて」と言うと言音がなくなる。